

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第156版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵

## 春期ソフトセミナー

6月28日、『ミマモリングソフトウェア』を使った年間研修の「春期セミナー」が終了しました。4月5日から始まった「春期セミナー」はまさに新年度始まったばかりの子どもたちの「今の発達」をソフトでしっかりと見つめて理解し、保育室の環境を見つめ直すことから始まりました。どんな環境やどんな関わりが必要なのかを考えて環境を変え、保育を行いながら子どもたちの姿から学び、そしてまた環境を整えていった2ヶ月間。その学びは「実践レポート」として参加園の全職員間で共有できる形になり、先日の6月28日には「この実践をもっと詳しく聞きたい」と参加者が選んだレポートの実践発表が行われました。

0〜6歳までの幅広い実践発表の中で特徴的だったのはどの発表も「入園したばかり、転園したばかり、クラスが変わったばかり」などの春ならではの子どもたちに寄り添った、丁寧でも心温まる実践だったことです。参加者の皆さんの参加後の気づきの中

には、「コロナ禍で安全面を意識しすぎるがあまり、子どもたちの発達に必要な環境まで無くしてしまっている」ということが多数あり、そして同時にそれを乗り越える工夫を学べてよかった」という声がたくさんありました。

セミナープログラム 動画・録画あわせて一つのセミナーです。再日ご参加ください。再観に年4回期間します。

2022年度「ソフトセミナー」年間スケジュール 開催時間 [13:00-14:45] 全日程共通です。

ワークショップを続けることで園内の環境がどんどんと出来上がっていきます！  
次は夏期セミナーご参加受付中です。詳細はカグヤHPにて！

## 参加方法に変化の兆し

保育環境研究所ギビングツリー主催、第56回保育環境セミナー空間的環境編を実施しました。昨年は会場での参加を20名に制限しておりましたが、今年は全国からおおよそ100名の方が現地で参加され、コロナ前のような活気が戻ってきました。



参加者の皆様のイキイキとした表情が、会場やオンラインの画面を通じて溢れていました！  
オンライン申込みはギビングツリーHPにて受付中です。

受付開始をした4月末頃は現地参加のお申込みは緩やかでしたが、GWを過ぎた頃から徐々に申込みが増え、ある園の先生から、「オンラインで申込みをしてみました。が、現地参加に切り替えてもいいでしょうか？」とお問い合わせを頂きました。理由をお聞きすると、「コロナ禍で園見学が出来なかったため、職員たち実際に園の保育環境を見て学んでもらいたいのです！」と仰っていました。セミナー参加園の現地・オンラインの参加方法の比率はほぼ5・5で、今年の現地参加が増えてきています。

2020年の6月、「こんな時だからこそ、今の子どもたちに必要な保育を考えて、深めていく大切な機会として

いきたい」との趣旨から、少人数での現地開催とオンラインでのセミナーの開催を企画し、3年目を迎えました。

この3年間でオンライン・オフライン、それぞれの長所がだんだん見えてきました。少しずつ「オフライン」も選択できる状況になっていくならば、コロナ前よりも選択肢が充実した分、その時々事情や目的に合わせて、参加方法を選択することが重要になっていくことを感じます。

## 遊びで学ぶ「協力」

私たちは日頃から「協力」や「協働」の意識を持って働くことを心掛けています。そのため、裏面記事にある一円対話や初心会議の前にはみんなが同じ目的を共有し、頭と体を柔らかくするためコーポラティブゲームを行っています。コーポラティブゲームとは、競い合って順位を決めるのではなく、みんな力を合わせてゴールを目指すような、参加者同士の協力を引き出すゲームのことで。社内だけでなく、園で一円対話を実践されている先生方が行ったり、子どもの発達に合わせ用意されている園があったりと、協力を育む大

切な考え方となっています。しかしコロナにより至近距離や接触は避け、私たちもリモートワークに切り替わりました。この2年間で、対面で行う想定のコポラティブゲームをオンラインでも行うための工夫や、考え方の転換、オンラインだと協力要素が薄れてしまうことなど、数々の課題にぶつかりました。



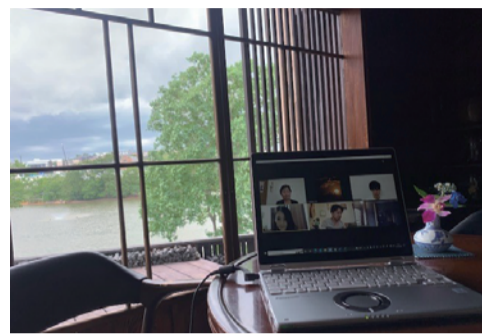
「Max」も子どもたちに人気のコーポラティブゲームです。

ある時は対面で行っていた「カウントアップ」というゲームが声だけを使う特徴だったためオンラインで挑戦するも、音声のタイムラグに阻まれ失敗。ある時は「家にあるものでしりとり」という、それぞれの自宅にあるもので協力し合えるようなゲームが生まれたりと、失敗と成功を重ねて開発を続けています。

まだまだ課題はたくさんあり、お客様に提供できる内容にするためには、より協力要素を意識し実践していく必要があります。オンラインでもオフラインでも協力して働ける環境作りのために、様々な角度から提案し続けていきたいと思います。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 振り返りの場



コロナ禍など皆で集まることが難しくなってからも、オンラインで工夫し、みんなで大事に続けています。

もありです。だからこそ私たちは、週に一度の「一円対話」、月に一度の「初心会議」と定期的に仲間と一緒に振り返る場を設けています。これによって、ふと立ち止まり自身を見直すだけでなく、改めて仲間の良さや、視野が広がって仲間やお客様を含めたくさんの繋がりがよおかげさまで、自分に気付けたりすることも。

自分自身が大事にしている働く動機や「初心」。組織が目指し大事にしている「理念」。これらを仲間と共に握り合い、実践しては振り返り、実践しては振り返り…と繰り返す中には、たくさんの学び合いや励まし合い、感謝が積み重なっていきます。

振り返りがまさに働く喜びや豊かさを味わう機会にもなっていますので、ひたすら前に進み疲弊しないようこれからも大事にしたいものです。

## 日本の智と慧

### 涼をとる

異例の早さで梅雨が明けて猛暑が続く中、水や電力の不足も懸念されており、この夏は少し覚悟が要りそうです。日本には昔から「涼をとる」という智慧がありますから、この際それらを思い出すのもいいかもしれません。私の子どもの頃は、襖を「夏障子」に入れ替えてまず風通しを良くしました。その他「打ち水・すだれ」あるいは「浴衣」といった実用的なものから、「風鈴・鈴虫」など音色に涼を感じるもの、また「かき氷・スイカ・素麺」といった体の熱をとってくれるもの、更には「怪談話」で



「桶の中の西瓜」どこかほっとします。冷蔵庫の冷たさではなく、この「風景の涼しさ」も一緒に味わいたいですね！

肝を冷やすものまでいろいろ工夫されてきました。本来はちゃんと汗をかいて体を暑さに慣れさせるのがいいと言われますが、今の暮らしにはその余裕がありません。冷房と冷たいもので極端に体を冷やしてばかりいると、その影響は秋口に出てきてしまうでしょう。そうならないためにも「涼しさ」を楽しむ余裕を持って、ひと手間かけ「五感を働かせて涼む」という実は豊かな「夏を味わうひととき」を持ちたいものです。

## 一期一会庵

### 善き仲間

カグヤを起業してから今までを振り返ると本当にたくさんの善き仲間が恵まれてきました。社員はもちろん、パートナー企業の方々、そしてお客様、恩師など、道を歩んでいくなかでご縁をいただきました。何かに成功したり結果を出したりもありませんが、本当の豊かさはこの善き仲間との邂逅ではないかと思うばかりです。今も善き仲間がいる御蔭さまで学びも深まり喜びも増えています。

以前、ある方に仏教の善知識経の中で仏陀が善き仲間について語ったシーンがあることをお伺いしたことがあります。そこでは弟子のアーナンダがサツカラの村に着いた時に仏陀にこう質問します。「共に仏法を学んでそして共に仏の道を歩んでいく。このような善き友がいるということ。このように善き友がいたことには、修行の既に半ばを達成できたに等しいと私は思ったのですが仏陀はどう思われますか？」と。その問いに対して仏陀は応えます。「そうではありません。善き友がいることは修行の半ばではなく、そのすべてです」と。アーナンダはきつと半分くらいと思っていました。仏陀はそれが全てだということです。そう考え

ると真の修行は善き友を持つこととすでに完成しているということだといえます。

また、別のところで仏陀は「悪友を避けて善友を求めよ、しかし善友が得られなければ、孤独に歩め」ともいいます。これは自分の中にある善心と一人歩めといったのかもしれない。悪友もまた自分の中にいる悪友を避けよといったのかもしれない。

みんなで道を歩んでいこうと決めたら、同じように道を歩む仲間と出会います。その道をもしても善き仲間たちと一緒に歩んでいくことができたらこんな仕合せなことはありません。

人はそれぞれ自分の決めた生き方に憧れ、一度きりの人生を自分自身で真摯に挑戦して歩んでいきます。挫けそうな時、負けそうな時、流されそうな時、道を共にする善き仲間が道を歩く時のお手本になってくれます。もしも道半ばで斃れたとしても、善き仲間がいればその時々々の物語や出来事を分かち合い託し、大切な意味がついてきます。道は、善き仲間によって永遠に続いていくのかもしれない。

これからの子どもたちのお手本になれるように、初心を守り理念を磨き、私たちの道を真摯に切り拓いていきたいと思えます。

## 編集後記



【自家製梅ジュース】梅の色合いや香り、氷の音で一息ついています！

セミナーシーズンが開幕しました。オンライン・オフラインそれぞれに良さがあり、同じ目的に向かって学び、園同士の実践を見聞きし合える、これからの学び方の形を感じています。実践発表を聞いて真似してみたい！とお聞きすることがあり

ます。ある先生が感触遊びの手作り玩具を紹介され、「生後3か月の我が子にも作れるかも!？」と、私もセミナー運営側でありながら、ついつい聞き入ってしまいました。連日の猛暑にバテ気味になりやすいと思いますので、体調に気を付けてお過ごしください。(奥山)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

